

2022年8月14日 浜寺聖書教会礼拝 担当 前山晋吾

タイトル: 信仰の確信をもっていますか？

聖書箇所: コロサイ1章3-4節

命題: 聖徒は信仰の確信をもって生きることができる。

パウロは会ったことのないコロサイの聖徒の信仰を感謝していた。

どうして、パウロはコロサイの聖徒の信仰を確信できたのか？

どのようにして信仰の確信をもって生きることができるのか？

A. キリスト・イエスに対する信仰(4節)

1) 本当の信仰に欠かせない要素

①キリストを救い主とすること

キリスト: 油注がれたもの→神が備えられた救い主

Evn; 前置詞: 中に、間に、で、よって キリスト・イエスによる信仰

神に対する罪の解決は、神が備えられた救いの方法以外にない。

第一コリント15章1-5節 福音によって救われる

「聖書の示すとおり」 神の救いの御計画

1. 創造主である神を認める → 神を認めない者
2. 神に対する自分の罪を認める → 自分の罪を認めない者
3. 自分に救い主が必要であることを認める → 救い主を認めない者

主イエスはキリストであると証された。 マタイ 26章 63-64節

しかし、人々はキリストを救い主と認めず、十字架につけた。

キリスト・イエスをあなたの救い主とするとはどういうことか？

創造主である真の神を信じ、罪を悔い改め、真心から救い主キリストを自分の罪の救い主であると信じ受け入れること。

②キリストを主とすること(3節)

私たちの主イエス・キリスト 主; キュリオス 主人、主権者

あなたはキリストを自分の主としているだろうか？

自分を捨て、主を愛し、主を第一として従う者がイエス・キリストの弟子

大ぜいの群衆がイエスといっしょに歩いていた (ルカ14章25節)

→イエス・キリストの教えを聞き、救われていると考えていた人に対して
だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。ルカ9章23節

自分の十字架を負ってわたしについて来ない者は、私の弟子になることができません。ルカ14章27節

マタイ19章22節 金持ちの青年 主イエス・キリストよりも財産が大切。

キリストを主とすることとはどういうことか？

なにものよりも、キリストを愛し、自分の主、神であると認め、従うこと。

つまり、すべてにおいて真心から主キリストに従うこと。

2) 本当の信仰を確証させるもの

①神のことば

十字架上の犯罪人は神であるキリストのことばにより天が保証された。

私たちは聖書の神のみことばにより、信仰を保証される。

ヨハネ 5 章 24 節 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの
ことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、
さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです。

→イエスのことばを聞いて神を信じる者は永遠の命をもつ

ヨハネ 14 章 6 節 主イエスが道であり、真理であり、いのちである。

②神の御霊、聖霊

ローマ8章14-17節 私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、
私たちの霊とともに、あかしして下さいます。

エペソ1章13-14節 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証

エペソ4章30節 聖霊によって証印を押されている

信仰の確信は救いを与えてくださる神の約束であるみことばが保証する。
また、神の聖霊が私たちに与えられていることが、救われていることを確
証する。

B. すべての聖徒に抱いている愛

1)御霊の実であること

コロサイ1章8節 御霊によるあなたがたの愛を知らせてくれました。

愛はアガペー、単数形 神が与えてくださった愛。聖霊の実である
無条件に与えられる、絶えることなく、自発的に、
喜んでささげられる、実際的な愛

2)イエス・キリストの弟子であること

ヨハネ 13 章 34-35 節 わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも
互いに愛し合いなさい。もし互いの間に愛があるなら、それによってあな
たがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

ピレモン、第一テサロニケでも、パウロは聖徒の愛を聞いて感謝している。
救われた聖徒に証印として与えられている聖霊の実である愛は、聖徒の
信仰が生きて働き、実を結んでいることを明らかにしている。

まとめ;聖徒は信仰の確信をもって生きることができる。

聖徒を罪から救い、信仰の確信を与えてくださるのは神だけである。

神が聖書の示すとおりに、キリストの十字架の死と復活を信じる信仰に
よって救いを与えてくださり、神の約束であるみことばと聖霊によって私
達に救いを確信させてくださる。

聖徒は聖霊により与えられる愛により、神を愛し、兄弟姉妹を愛する
者として、救いを確信し、神に感謝して生きることができる。